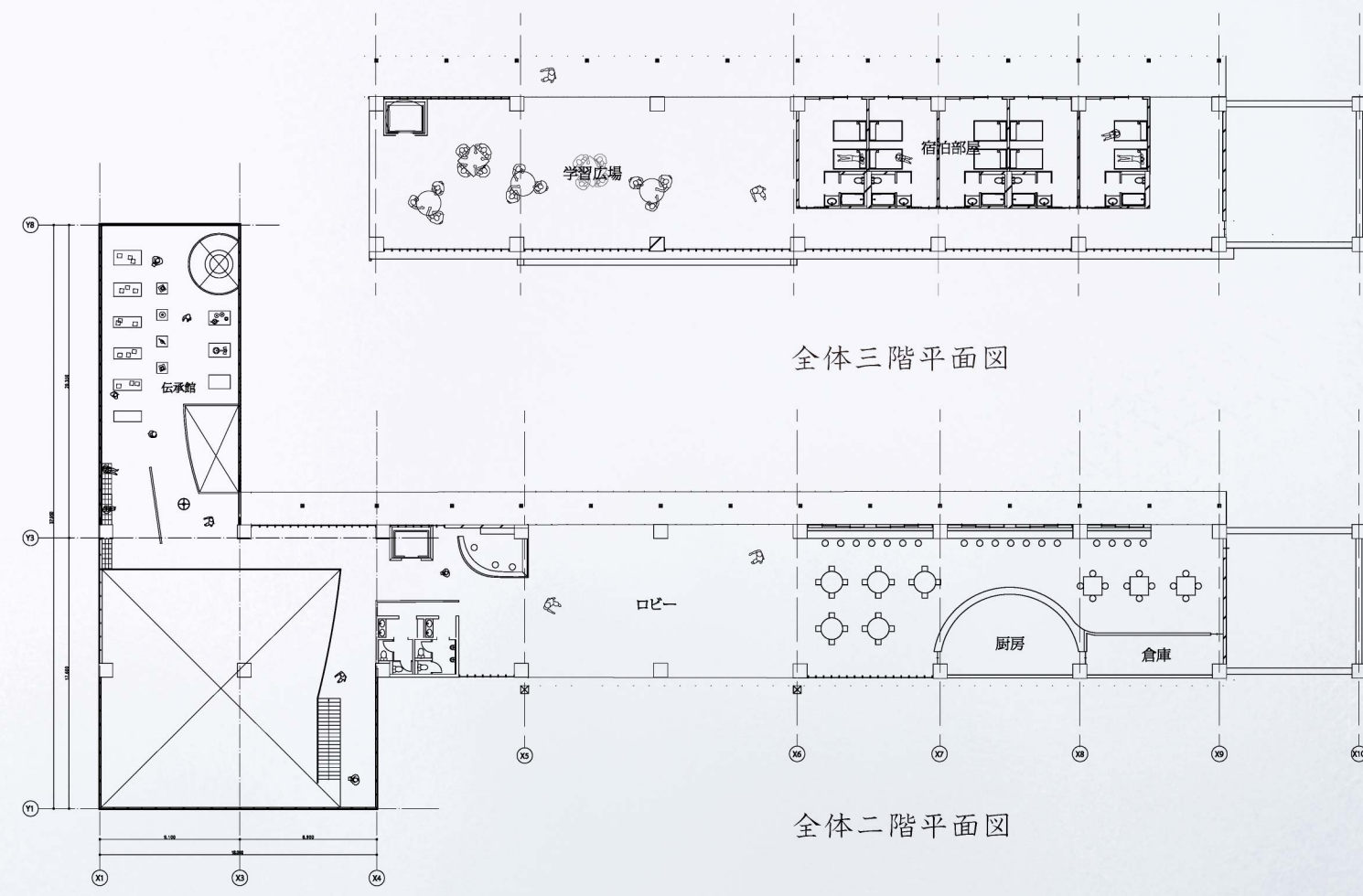




■ 設計主旨

ぶなを中心とした広葉樹が広がるこの地域には、受け継がれてきた伝統芸能がある。一方、少子高齢化の波は押し寄せ、小学校が廃校になるなど地域コミュニティの維持は年々難しくなりつつある。その様な、伝統芸能【ハレ】と日常のコミュニティ【ケ】といった要素に、自然の恵みを掛け合わせて、地域が活性化するプラットフォームをつくることが本計画の出発点である。



■ 地歌舞伎の歴史

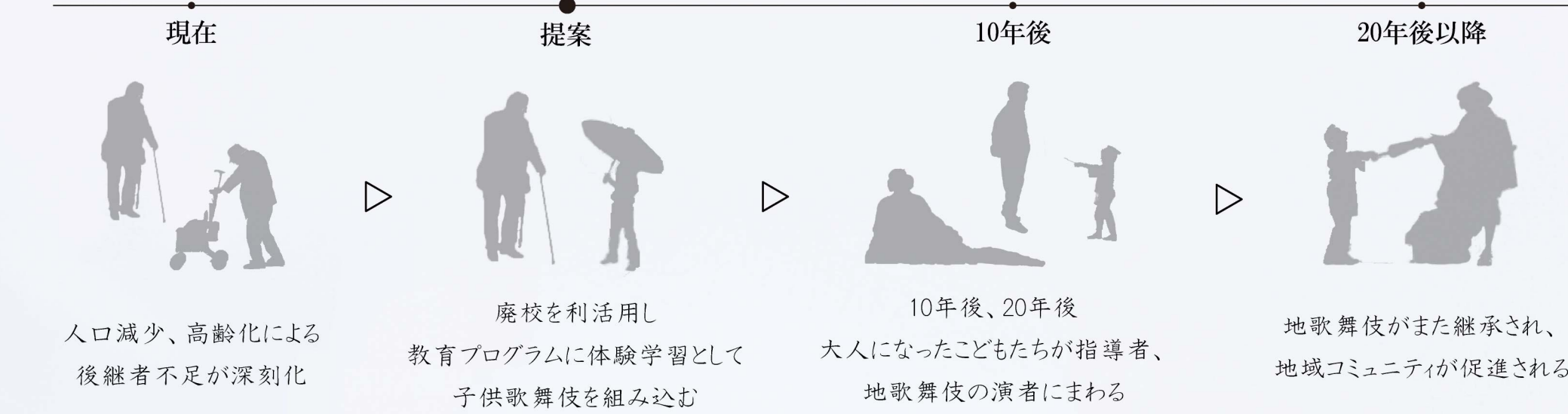
名 称	太平洋戦争(1941-1945)						現在
	1750	1800	1850	1900	1950	2000 [年]	
古田歌舞伎	○：ソフトに関する出来事 ●：ハードに関する出来事 — 地歌舞伎の上演 — 現在の舞台						
	中断 (1887) 移転 (1848頃) 公民館使用 (1887-1997) 復興 (1987) 買い芝居に変質 (2019-) 沖能小学校体育館使用 (1997-2014) 小国小学校体育館使用 (2014-現在)						



▲ 平成25年の上演の様子

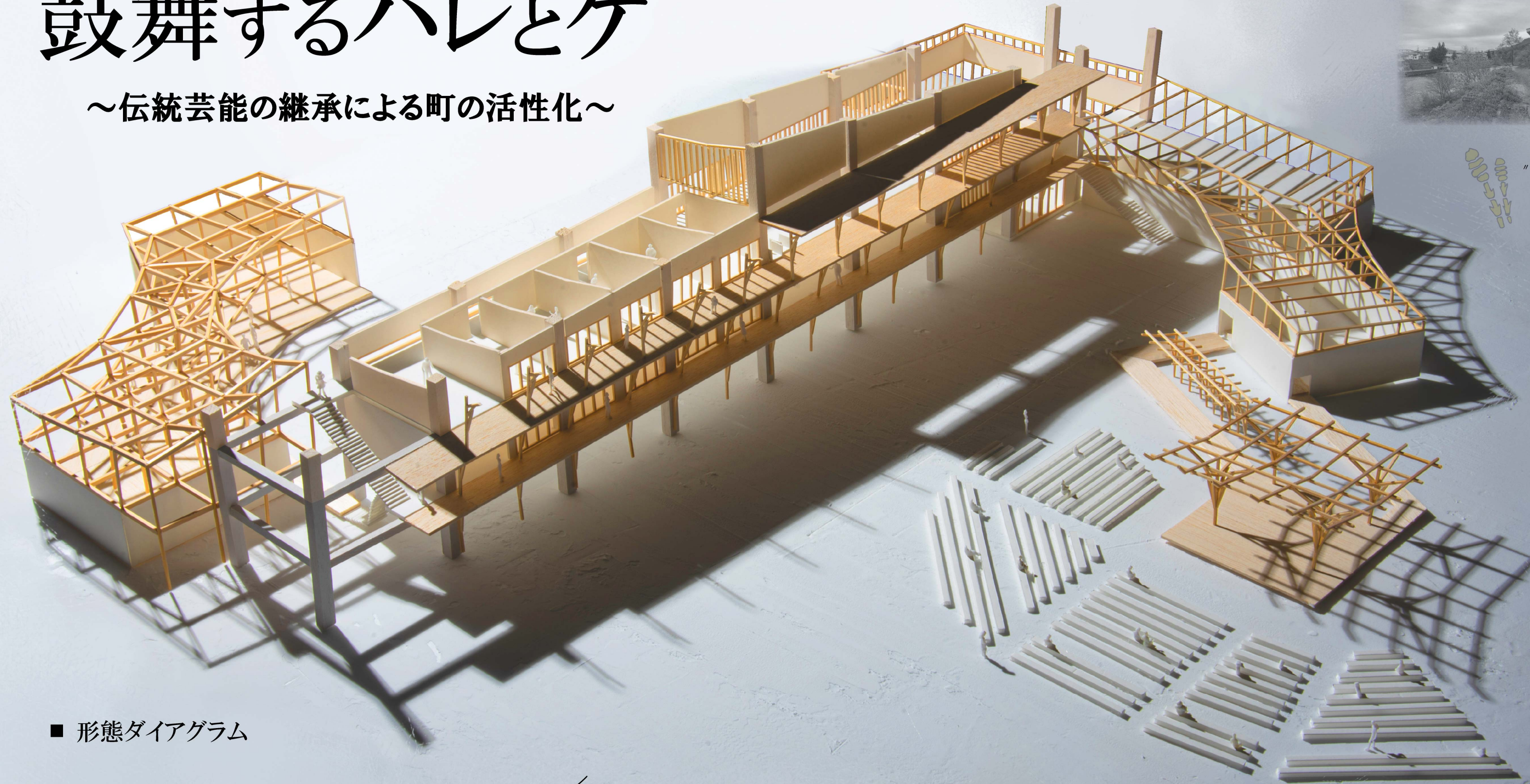
古田歌舞伎は、古くは「古田芝居」として江戸時代末期より親しまれてきた。一度は終焉を迎えたが、古田歌舞伎保存会の結成により復活を遂げ、今では地域の宝、街の指定文化財となっている。

■ プログラムによる変化

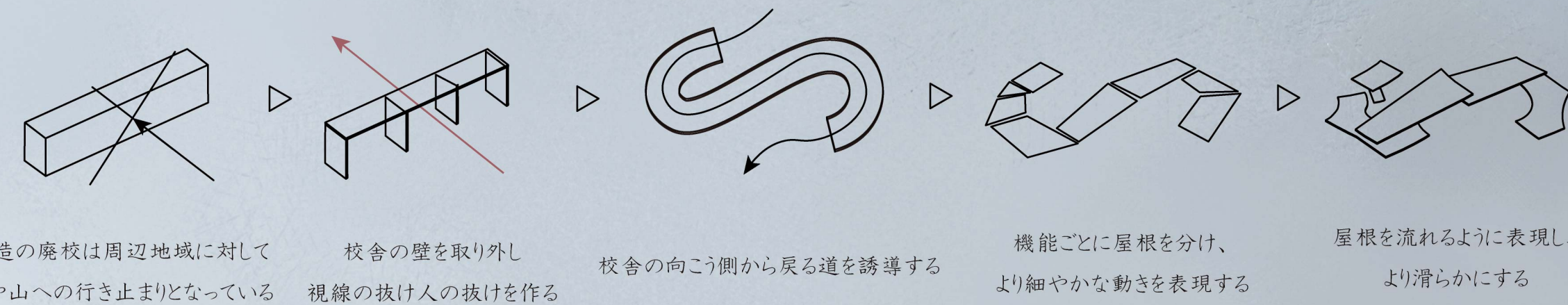


鼓舞するハレとケ

～伝統芸能の継承による町の活性化～



■ 形態ダイアグラム



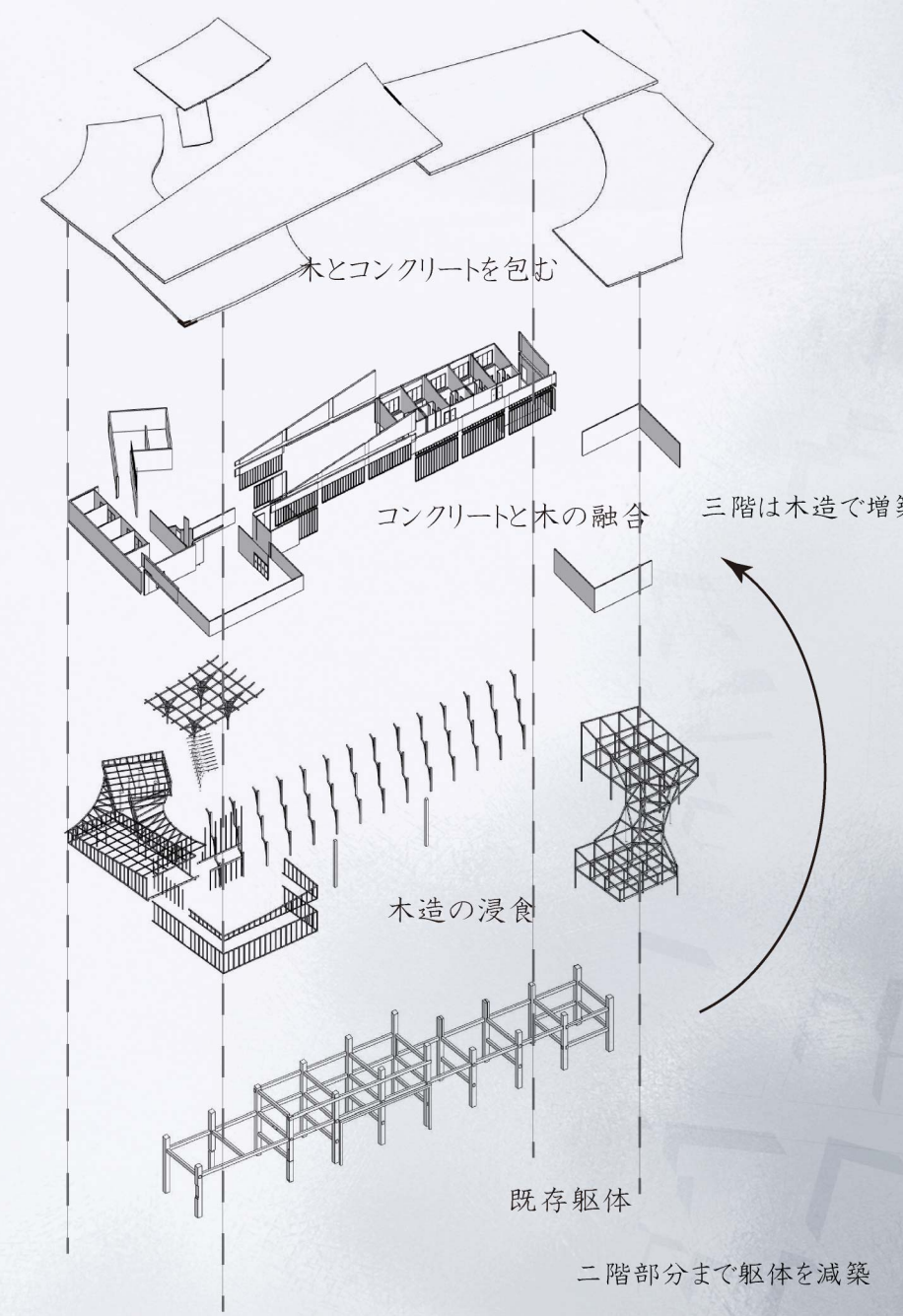
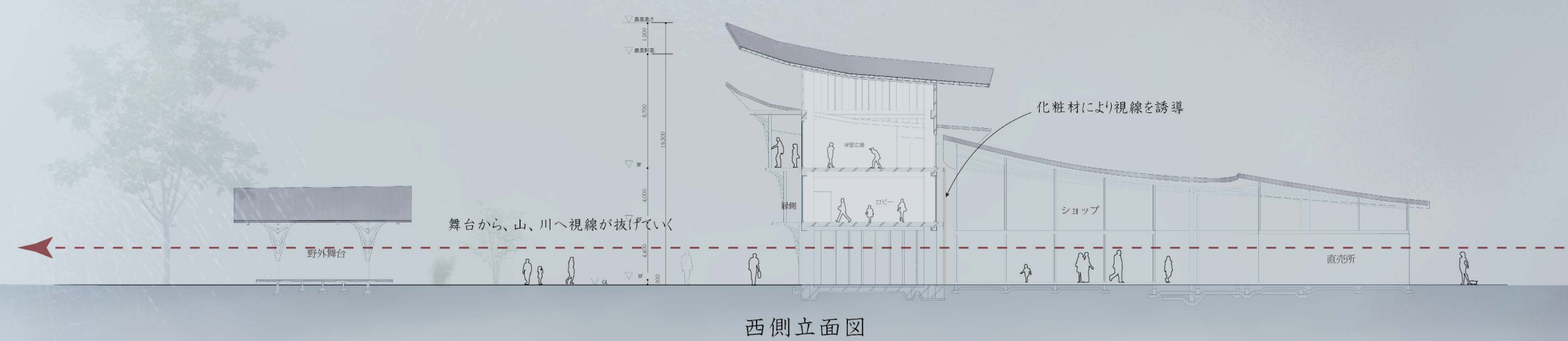
RC造の廃校は周辺地域に対して川や山への行き止まりとなっている

校舎の壁を取り外し視線の抜け人のかげを作る

校舎の向こう側から戻る道を誘導する

機能ごとに屋根を分け、より細やかな動きを表現する

屋根を流れるように表現し、より滑らかにする



計画地：山形県西置賜郡小国町



“周辺地域は広葉樹に囲まれており、山の幸が豊富に採れる。”

野外舞台である意味

屋内の閉ざされた場所で公演されてきた地歌舞伎を野外へ放ち、より親しまれるモノへと変化させる。

町の中心である意味

敷地はこの町の中心地であり、かつての賑わいを取り戻すことは地域全体の活力になる。

遺すことの意味

躯体を遺すことは、思い出を残すこと。100年先も愛される建築を目指し、古さが新しさを支えることを象徴した。



ショップと直売所の間のオープンスペース

地歌舞伎上演風景

スロープによって自転車や車いすでも上り易い